

ストレングス - パワー変容過程における局面展開 (2)

—ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーの活用に向けて—

広島国際大学 山口真里 (5501)

キーワード: スtrenグス、ストレングス - パワー変容過程、ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナー

1. 研究目的

近年ストレングスは、ソーシャルワーカーと利用者との対等な関係を構築し、真に利用者の望む生活を実現する支援展開の鍵概念として注目されている。その一方でストレングスに着目する支援過程や展開方法については、十分明示されてきていない現状がある。

こうした問題意識から、ストレングスに着目した支援過程として、ストレングス - パワー変容過程を提示してきた。ストレングス - パワー変容過程とは、利用者が培ってきたストレングスを利用者自身が他者や周りに影響を与え、行動を起こしていくパワーに変容させる局面展開をもつ一連のプロセスである。そしてその局面展開では、ストレングスに着目しそれを活用した行動力へつなげていく促進者の役割が中核的機能を果たすことがわかった。しかしストレングスに着目したソーシャルワーク実践の方法を確立するには、支援過程局面でのソーシャルワーカーの役割ととその具体的展開方法を考察することが必要不可欠である。

そこで本研究では、ストレングス - パワー変容過程の全ての局面に深くかかわる促進者の役割に着目し、それを促すツールの検討を行ってきた。具体的には、利用者のストレングス状況とその変容を捉えるツールとしてストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーを試作した。ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーとは、ソーシャルワーカーが利用者のストレングスに着目し、その変容状況を把握できるように従来のエコスキャナーを改良したツールである。本報告は、ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーの試作に至る手続きとその検証、今後の活用の可能性を明らかにするものである。

2. 研究の視点および方法

これまでの継続研究をとおして本報告では以下の3点の研究課題にしぼり考察を試みた。

- 1) スtrenグス - パワー変容過程の局面展開と促進者の役割の関係
- 2) 局面展開を促すツールとしてのエコスキャナーの改良
- 3) スtrenグス - パワー変容過程版エコスキャナーの検証
- 4) スtrenグス - パワー変容過程版エコスキャナー活用の可能性の模索

3. 倫理的配慮

本研究で用いている事例や調査内容については、事前に当事者に承諾を得ており、個人が特定できないように匿名化して報告を行う。

4. 研究結果

本報告では、上記の研究方法に沿って考察を行った結果、以下の2点が明らかになった。

- 1) ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーの有効性
- 2) ソーシャルワーク教育におけるストレングス - パワー変容過程版エコスキャナー活用の可能性

まず本研究で改良を行ってきた試作品については、現在進行形の実践事例に基づいて実践現場のソーシャルワーカーに検証を行ってもらい、1) ストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーの有効性を確認することができた。具体的には、ソーシャルワーカーがストレングスに着目したり、パワーへの変容状況を確認・評価する局面で、その促進者としての役割を促すことが明らかになった。

また自らが担当している社会福祉援助技術演習のなかで、受講生にストレングス - パワー変容過程版エコスキャナーを使ってストレングス視点を体験してもらったところ、「ストレングスの理解を深められた」などの感想を得ることができた。このことは、2) ソーシャルワーク教育におけるストレングス - パワー変容過程版エコスキャナー活用の可能性を示唆するものであり、今後の研究課題として残されることとなった。